

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- 「読める」「書ける」という基礎的、基本的な力を確実に身に付けさせる。
- ・鉛筆の持ち方、字を書く時の姿勢、書き順など丁寧に最後まで粘り強く取り組む学び方を習慣化する。
- ・言葉の意味や使い方を知り、言葉をまとまりとして捉え、音読する力や表現する力を伸ばす。
- ・促音、拗音、助詞「は」「を」「へ」など身に付けた知識・技能を活用して、正しく文章が書ける力をつける。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・活用場面を国語科以外でも設定し、基礎基本の定着を図る。
- ・スキルタイムや家庭学習において学習の習慣を身に付けさせる。
- ・音読練習等の宿題を課し、家庭との連携をする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・時間を確保して適宜確認をしながら、鉛筆の持ち方、姿勢、書き順、話し方、聞き方等、学び方を習慣化させる。
- ・読み聞かせや読書活動を行い、語句のまとまりや関係について理解を深め、身近なことを表す語彙を増やす。
- ・音読指導を習慣化し、文書のまとまりを捉え、言葉や文の意味を理解させる。
- ・全体での発表の場やペアでの活動を増やすことで、言語を通して正確に理解したり適切に表現したりする力や聞く力を育む。
- ・日記、お手紙、新聞作り等、書く経験を多く設定し書くことに慣れさせる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①確実にひらがな、カタカナ、漢字の語彙を身に付けるために、文字に関わる学習環境を意図的に整える。
- ②言葉の適切な使い方や文章の書き方、促音、拗音、助詞の定着を図る。

＜検証方法＞

- ①50音表、既習漢字をいつでも確認できるように掲示する。辞書を活用した言葉集め、漢字カルタカードなど文字に興味を抱く活動を設定する。語彙の5問テストを細めに設定し、確実に身に付ける。
- ②毎日のミニ日記に取り組み、書くことに慣れさせ、促音、拗音、助詞の書き取りを定着させていく。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・新出漢字時に意図的に関連する語彙に触れ、言葉の作りや意味を考えさせ、語彙力を増やした。
- ・ミニ日記の毎日の積み重ねで、文章への抵抗はなく書くことができる。

＜課題＞

- ・構成を考えた文を書く力が弱い。
- ・促音、拗音、助詞、カタカナは繰り返し練習が必要である。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・カタカナで書く言葉とひらがなで書く言葉の区別が難しい。引き続き練習し、習熟をさせる。
- ・構成を考えた文章を書く練習が必要である。
- ・文章を書くことへは抵抗はないが、促音、拗音など脱字が見られる。引き続き練習し、習熟をさせる。
- 特に、小さい「つ」。
- ・見直しをする習慣づけを継続する。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・「はじめ」「中」「おわり」を意識した文章を自分の言葉で考えて書くことができる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10までの数の合成や分解の理解の習熟、定着をさせる。 ・文章問題を読んで内容を理解したり、数量の関係に着目して立式したりすることの習熟をする。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併、増加、求残、求差の言語を視覚化し、文章問題において立式の根拠をもてるようにする。 ・児童の習熟の度合に応じて演習量・難易度を選択できるようにする。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを使い、具体的操作を取り入れ、数の合成、分解を繰り返し行い、数の感覚を養う。 ・ブロックを使った操作活動や問題文を絵で描き表したり、図で表したり、問題場面を具体的にイメージさせる活動を多く取り入れたたりしながら、問題解決へつなげていく。 ・文章問題の中のキーワード「ぜんぶで」「あわせて」「のこりは」などに着目させる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈方策〉</p> <p>①数に慣れさせ、計算の習熟ができるように反復学習を行い基礎的な定着を図る。また、達成度を記録し、把握しておく。</p> <p>②文章題の解決方法や計算の仕方を、半具体物や図、言葉を使って説明したり、ノートに表現したりする場を多く設ける。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>〈検証方法〉</p> <p>①学習の始めに、1分間チャレンジタイムを設定し、数の合成、分解やたし算、ひき算など問題カードに取り組み習熟を図る。</p> <p>②ペア学習を計画的に取り入れ、ブロックやノートの図などを使って、立式の根拠を示して説明させる。</p> </td> </tr> </table>		<p>〈方策〉</p> <p>①数に慣れさせ、計算の習熟ができるように反復学習を行い基礎的な定着を図る。また、達成度を記録し、把握しておく。</p> <p>②文章題の解決方法や計算の仕方を、半具体物や図、言葉を使って説明したり、ノートに表現したりする場を多く設ける。</p>	<p>〈検証方法〉</p> <p>①学習の始めに、1分間チャレンジタイムを設定し、数の合成、分解やたし算、ひき算など問題カードに取り組み習熟を図る。</p> <p>②ペア学習を計画的に取り入れ、ブロックやノートの図などを使って、立式の根拠を示して説明させる。</p>
<p>〈方策〉</p> <p>①数に慣れさせ、計算の習熟ができるように反復学習を行い基礎的な定着を図る。また、達成度を記録し、把握しておく。</p> <p>②文章題の解決方法や計算の仕方を、半具体物や図、言葉を使って説明したり、ノートに表現したりする場を多く設ける。</p>	<p>〈検証方法〉</p> <p>①学習の始めに、1分間チャレンジタイムを設定し、数の合成、分解やたし算、ひき算など問題カードに取り組み習熟を図る。</p> <p>②ペア学習を計画的に取り入れ、ブロックやノートの図などを使って、立式の根拠を示して説明させる。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>〈成果〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの児童が、10の分解、合成を理解している。毎時間1分間チャレンジを繰り返し、指を使わず計算する児童が増えた。 ・ノートに自分の考えを言葉だけでなく、図や吹き出しで説明し、まとめる力をつけた。 <p>〈課題〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・しばらく計算問題をしないと繰り返り下がり計算を「引く数から引かれる数」を引くという傾向がある。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指を使用しながら計算する児童もいる。継続して計算に慣れさせる。 ・文章問題を読み取る力をつける。 「わかっていること」「聞いていることは」引き続き線を引いて確認する。 ・見直しをする習慣づけを継続する。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正確に計算する、文章を読み取ることができる児童。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 生活科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・全体的に生活経験が少なく、日常の生活の中で必要な技術が十分でない児童が見られる。
- ・観察する時の着眼点が分からず、気付いたりしたことを絵や文章で表現する力に個人差がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・国語科で学習したことを活用する経験を意図的に設定する。モデルとなる言語表現を選択したり、自ら考えたりして表現する。
- ・気付きを大切にしたい体験活動の充実を図る。
- ・世話を続けることだけでなく、記録し続けることで、変化の違いに気付けるようにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・日常生活の知識と技術を高め、意欲と自信をもたせることによって、自立の基礎を養う。
- ・観察や活動の視点を明確に示し、新たな気付きにつなげられるようにする。
- ・絵や文で表したものをもとに、考えや意見の交流を図る時間を多く設定し、表現する機会を増やす。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①内容や時間の見通しを持ちながら、児童の生活や体験に基づいた具体的な活動を行う。
- ②変化した様子を見とる着眼点について、繰り返し指導し、文章や絵での表現方法の仕方は手本を提示しながら指導する。

＜検証方法＞

- ①「手や体を使う活動」「様々な道具を使う活動」をたくさん取り入れ、生活上必要な技能を身に付けさせる。
- ②観察の5つのポイントを掲示し、確認してから観察する。「見付ける、比べる、たとえる」などの具体的な視点を与えて支援する。交流できる場を設け、新たな気付きへ繋いでいけるようにする。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・「見る」「触る」「聞く」「感じる」「考える」を多く体験し、考える力をつけた。
- ・1年間で同じ植物を観察することで、観察するポイントを示し、変化を絵や文で表現することができるようになった。

＜課題＞

- ・観察したことを抽象的に表現する児童がいる。口頭で聞くと具体的に表現できるので、文章で表現できる練習が必要である。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・変化した様子を見とる着眼点について、繰り返し指導し、より具体的に文章や絵で表現する力をつける。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・比較したり、新たな観点で発見したり、自分で工夫して観察することができる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 音楽科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。
- ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。
- ・リズム打ちや器楽の学習において技能習得に時間がかかる傾向があり、個別指導を丁寧に行う必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・リトミック（リズム遊びやわらべ歌）を通じて、拍感覚や歌唱を身に付ける。
- ・友達との学び合いの中で表現活動の楽しさを味わせる。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。
- ・曲を聴いたり絵譜を見たりして曲想の感じ取りを深めたり、様々な表現方法を体験したりして、曲想を感じ取った表現ができるようにしている。
- ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①曲を聴いたり絵譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲想の感じ取りを深めたり、それを生かした表現をしたりすることができるようにする。
- ②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。

＜検証方法＞

- ①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲想の感じ取りを深めることができたか確かめる。
- ②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・発言を促したりワークシートに記入したりすることで、曲想の感じ取りに深まりが見られた。
- ・歌唱や器楽表現を個別に見取る機会を設けることで、その後の個別指導に生かすことができ、表現活動への意欲が高まった。

＜課題＞

- ・感じ取ったことを表現に生かせるようにする。
- ・技能を定着させ、次の学習に生かせるようにする。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・技能習得に時間がかかる傾向があるため、教材選択を工夫したり個別指導を重点的に行ったりする必要がある。
- ・発言やワークシート等で感じたことや気付いたことを表出できる児童が比較的多いが、選択肢を与えたり個別の声掛けをしたりする等の手だてが必要な児童もいる点に留意する。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

感じたことや気付いたことを生かし、思いをもって表現したり、音楽のよさや面白さを味わいながら聴いたりすることができる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線をもちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。
- ・自分で考えたり、感じたりして豊かに表現や工夫する力をさらに高める。
- ・様々な発想の方法をできるように発想する力をさらに高める。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・安全面の指導を必ず行う。
- ・様々な材料や用具に使える活動を充実させる。
- ・お互いの工夫を共有できるような活動を紹介する。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・基本的な材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認するとともに様々な学習場面で何度も活用できるようにする。
- ・表したいものを見つけるための様々なアプローチを経験できるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① 掲示や ICT を活用しての材料や道具の使い方を説明するとともに、様々な道具や材料に何度も触れる機会を増やす。
- ② 表したいものを見つけるための様々なアプローチを経験できるように導入の中でねらいを明確にして伝えることにより意識させる。

<検証方法>

- ① 児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。
- ② 児童や作品観察。毎回の授業でねらいにそった活動が行われている。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・基本的な材料や道具の扱い方を掲示や ICT を活用することにより正しく扱うことができていた。
- ・ねらいを明確に伝えることにより、目的を意識しながら活動を行うことはできていた。

<課題>

- ・道具や材料を正しく扱うことはできているので自分なりの工夫をさらに持てるようにしたい。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・さらなる基本的な材料や道具の扱い方の定着のために掲示や ICT などを活用して取り組んでいく。
- ・導入や材料なども工夫し、児童が意欲的に取り組みながら発想を広げられるようにする。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

自分で考えたり、感じたりして豊かに表現や工夫する力のある児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・基本運動の経験に個人差があり、運動やゲームを楽しく行うために必要な技能や体の使い方を身に付ける必要がある。
- ・活動の中で、児童自身がそれについてできるように考えたり、友達に聞いたりすることができるようにする。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・いろいろな運動に触れて多様な運動遊びを行う。
- ・服装の確認をする。
- ・集団行動（前へならえ、やすめ、気をつけ、体操の隊形、体育座り、回れ右等）を取り入れる。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・児童の発達段階に応じて、様々な動きを繰り返し経験させる。また、その活動を繰り返す中で、試行錯誤したり、協同的に解決できるよう、運動の特性に合わせて、めあてやルールを工夫したりして、運動の楽しさを十分に味わえるようにする。
- ・様々な基本の運動を多く体験させることにより、幅広い運動経験を積み重ねられるようにする。
- ・児童の取り組みの工夫を発表できる場を設定し、互いに認め合達成感を児童自ら感じられる指導をする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ①学習カード使い、身に付ける技能を明確にする。動きに応じた体の使い方を準備運動などで教える。
- ②友達同士、よい動きを見付けられ、互いに認め合える習慣をつける。

〈検証方法〉

- ①ポイントの色分けをしたり、ホワイトボードを活用したりするなど、児童が視覚的にも理解しやすいように説明する。
スモールステップによる学習の場を設けて達成感をもたせる。
- ②グループ活動や他の児童の模範を見る時間や教え合う場面を適切に設定する。

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

- ・準備運動で、いろいろな動きを多く取り入れ、体の動かし方を身に付けさせた。
- ・グループ活動を多く取り入れ、教え合う場を通して、互いの良い所をまねっこしながら動きを習得できた。
- ・スモールステップの学習により、達成感を味わいながら学習できた。

〈課題〉

- ・友達同士、より具体的なアドバイスができる工夫ができるようにしたい。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・基本的な動きは身に付いているが、体がかたい児童が多い。短縄は技をより広げられるとよい。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・自分の動きや教え合い時のアドバイスの工夫ができる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第1学年 道徳科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・登場人物の気持ちを想像できなかつたり、物事の事象について考えたりする力を高める。
- ・学習で考えたことを、自分の生活に結びつけ、生かそうとする力を高める。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・具体的なものを提示したり、学校生活や日常を振り返させたり、場面を想像しやすいように工夫する。
- ・場面の挿絵を提示したり、役割演技や動作化をしたりして考えをもたせやすくする。
- ・道徳的価値に関わる事象を児童の実態に即して具体的な事例を挙げて考えさせ、自分自身の問題として受けとめられるようにする。そして、自己の生き方の課題を考え、実現していこうとする思いや願いを深められるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①考えをもつための時間の確保やペア学習や動作化を取り入れ、自分の気持ちの視覚化をする。
- ②自分の生活に結びつけて考えらえる発問を吟味し、児童の実態に合わせて学習を展開する。

<検証方法>

- ①ペア学習を適時入れることで、多様な考えに振られたり、役割演技や動作化を取り入れたら、気持ちを考えやすくしたりする。
- ②具体的な場面を思い起こさせたり、学習後も児童の生活の中で該当する場面を示したり、自分の生活とつなげて考えさせたりして、価値への意識づけを行う。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・役割分担やペア学習を多く取り入れ、自分の気持ちを考える手立てとなった。
- ・ペア学習は、自分の考えをもつことができた。全体発表でも、臆することなく発表することができた。

<課題>

- ・学習後、自分の生活とつなげて考えさせる、価値への意識づけが弱かった。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・具体的な場面を思い起こさせたり、学習後も児童の生活の中で該当する場面を示したり、自分の生活とつなげて考えさせたりして、価値への意識づけを行う。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・学習したことを、自分の生活へとつなげて考えられる児童。